

グローバル・スタディーズ研究センター 2010年度プロジェクト

2010-1

文科省「大学教育推進プログラム」に選定

国際関係学部 教授 立田洋司、助教 比留間洋一

このたび、文部科学省の平成22年度大学教育推進プログラム事業に、本学国際関係学部の取組「フィールドワーク型初年次教育モデルの構築」（責任者：立田洋司教授）が選定されました。本学の学部としては初めてのことであり、県内においても唯一の選定でした。また、これはグローバル・スタディーズ研究センターの活動成果でもあります。

この取組は、国際関係学部の初年次教育として、国内外の6つのフィールドワーク（下のリスト参照）を試行的に実施し、また実施後に評価・効果の検証を行うことで、ヴィヴィッドな教育を築いていこうというものです。学生自らが課題を発見し、その解決に至るまでの一連のプロセスの中で主体的・能動的学習姿勢を身につけ始めれば、自ずと人間力は強まります。

実施期間は今年度から3年で、後期からすでに始動しています。参加学生の1年生約50人、上級生約20人が、『ムセイオン静岡』（※）の提供する授業などのほか、毎週1回以上のゼミを実施しています。他に、合同ゼミとして12月8日（水）には「危機管理セミナー」、12月17日（金）には「奈良・春日若宮おん祭」研修も実施しました。

本プログラムをステップとして、国際感覚と教養・思いやりや実行力を備えた若人、言わば21世紀型地球市民がはばたいていくことを期待しています。

※ ムセイオン静岡とは、静岡市の谷田丘陵地やその周辺地域の文教施設の連携により、学びの場を提供し、文化を発信する活動です。

<6つのフィールドワーク・ゼミ紹介>

2年間で各地にそれぞれ20人前後の学生を送り出す予定です。

サンタフェ（米国のサンタフェに関するガイドブック作成プロジェクト）：藤巻光浩准教授
シドニー（多様性文化の都）：澤田敬人准教授

ケニア（SUSPA【静岡県立大学学生アフリカ支援プロジェクト】）：湖中真哉准教授

スペイン（サンティアゴ巡礼路、ムデハル、モサーラベ文化など）：立田洋司教授
ベトナム（ソンミ、ホーチミン市（ベトナム戦争の記憶））：比留間洋一助教
日本（能・狂言・伝統古典芸能、海外に紹介する日本文化）：岩倉さやか講師

2010-2

大学教育推進プログラムの活動報告

本センターの教員 5 名が、平成 23 年 2 月・3 月に下記の通り、5 つの地域において海外フィールドワークを実施しました。

アメリカ（地球市民的視点から産学連携の可能性を模索するサンタフェ・ガイドブック作成プロジェクト）

担当教員：藤巻光浩准教授

期間：平成 23 年 3 月 17 日～3 月 28 日

参加学生：9 名

オーストラリア（オーストラリアの多文化に学んでリーダーシップに生かすためのスタディツアー）

担当教員：澤田敬人准教授

期間：平成 23 年 2 月 15 日～2 月 23 日

参加学生：16 名

ケニア（SUSPA（静岡県立大学国際関係学部アフリカ避難民支援プロジェクト））

担当教員：湖中真哉准教授

期間：平成 23 年 3 月 1 日～3 月 12 日

参加学生：10 名

スペイン（オリエント・地中海の文化遺産から智慧と思想を学ぶツアー）

担当教員：立田洋司教授

期間：平成 23 年 3 月 7 日～3 月 17 日

参加学生：19 名

ベトナム（ベトナム戦争の記憶：～岡村昭彦文庫における展示会プロジェクト～）

担当教員：比留間洋一助教

期間：平成 23 年 3 月 14 日～3 月 22 日

参加学生：15 名

お知らせ

平成 23 年 5 月 31 日（火）に、学生による海外フィールドワークの成果報告会を開催します。関心のある方はどなたでもふるってご参加下さい。

場所：本学一般教育棟 2103 講義室

時間：16:20～19:20

プログラム内容：下記リンクをご参照下さい。

<http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/event/gp20110531/index.html>